

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000229		
法人名	社会福祉法人 北見睦会		
事業所名	グループホームかがやきの里むつみ5号館・6号館		
所在地	北海道北見市端野町端野25番2		
自己評価作成日	平成24年1月9日	評価結果市町村受理日	平成24年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0195000229&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成24年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり、少しずつ、自分らしく、ありのままに…」を運営理念に掲げ、入居者様に尊厳を持って、その人らしく暮らせるように、お手伝いさせて頂いています。緑豊かな広々とした施設の中で、家庭的で和やかに、ご自分で出来ることは、ご自分でやっていただく、出来ないところをお手伝いさせて頂く、入居者様が安心して穏やかに過ごすことが出来るよう、心の通い合ったケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

かがやきの里むつみ5号館・6号館は、北見市端野町の旧端野町役場跡に建設した木造平屋建ての2ユニットのグループホームになっています。渡り廊下で繋がった小規模多機能事業所むつみが併設され利用者や職員が、いつでも行き来出来る配置になっており、6号館ホールにおいて各利用者、職員が集まり端野小学校の吹奏楽部がボランティアで演奏したり、端野保育所園児が踊りの披露をする等交流と癒しの時間を過ごし、利用者の笑顔が見られています。端野中学校の生徒も訪問しレクリエーションや会話を楽しみ、いつもと違った雰囲気でも和気藹々と過ごす等全て学校側からのアプローチで継続実施されていることから、理解された事業所になっています。町内会の行事に積極的に参加し、近隣住民は事業所の焼肉に家族と共に参加するなど地域との連携は大変密になっています。避難訓練においても自治会と文書で、火災時や災害時における協力体制を取り交わし連携をすることで、利用者の安心安全に繋がっています。昨年開設した小規模特別養護老人ホームも敷地が隣接していることで、合同で行事や避難時の協力体制も構築していく姿勢が見られます。管理者職員一同、同じ目線同じ方向で利用者本位のケアサービスに取り組むことが出来る様努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、自分らしく、ありのままに・・・」を理念に掲げ各ユニットに掲示し、常に利用者様が尊厳を持って生活が送れるように取り組んでいます。	運営法人の基本理念を理念とし、管理者職員は落ち着いた雰囲気の中で、生活を送り地域全体で支え合う事に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内会の行事には、参加させていただいています。地域の小学校・中学校の生徒さんとの交流もあります。端野小学校の吹奏楽部が2回施設において演奏会を開いてくださる。小学校のクリスマスコンサートに参加しています。	町の道路清掃や花いっぱい運動に参加すると共に、事業所の行事である焼肉会では家族や町内会・子どもの参加者が年々増えて、普段の交流からも理解されている地域の拠点になっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のお祭りなど、地域の方、ご家族に声を掛けて入居者様とふれあい、理解につなげています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・町内の方達との話し合い、今後の取り組み、活動状況の報告などを通じ意見をいただいて今後の運営に活かすことが出来るように、取り組んでいます。	年6回定期的に開催され、毎回町内会新旧役員・地域包括支援担当者・市役所福祉課職員・小規模家族とグループホーム家族が参加し、現状報告や事故報告、意見要望が話し合われ運営に反映されています。議事録を作成しています。	事業所の取り組みの説明をし、地域の方たちへ発信していますが、全ての家族に内容が伝わってない為議事録を出席者や家族に配布して理解と協力を繋げる事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	判断できない件など、市役所に出向き意見をいただいたり、居宅会議に参加させていただき情報の収集に努めています。法人研修会にも介護福祉課係長に来ていただき研修会を行いました。	介護福祉課とは日々の運営や利用者の入居状況、相談などを行っています。内部研修では、講師として職員の意識向上に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が法人内研修を受け、身体拘束をしないケアについて理解し、取り組んでいます。スタッフは常に見守りを行い、日中は鍵を掛けない支援を行っています。	毎年法人全体で内部研修において身体拘束をしないケアに取り組み、職員は拘束・虐待かを理解しています。夜間以外玄関に鍵は掛けないで見守る支援をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされることが無い様に施設内を見回り注意を払い、虐待が見過ごされることが無いよう気を配っています。言葉遣いにも気を配るように話をさせて頂いています。講演会などに参加し、学ぶ機会を多く持つようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は必要に応じて、活用できるように学んでいます。判らないときには、包括支援センターと連携をとり対応に当たりたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は十分に説明を行い、理解納得を得てからの契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口、担当者を明確にしています。運営推進会議にて、町内会、民生委員さん、包括などに意見をいただき運営に活かすようにしています。コミュニケーションを取り、家族が意見要望などを表明しやすい状況を作っています。	利用者の誕生会や運営推進会議に参加して利用者の現状報告する中で、管理者・職員に意見・要望を言える関係作りに努めています。細かいことでも話し合いの上、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの際や、個人面談などで、職員の意見や思いを汲み取れるようにしています。	管理者は毎月2回のカンファレンス会議の中から職員の意見等を受け止め、常に現場の声を大切に運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、職務状況を把握し、それぞれが向上心を持って仕事ができるように、環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修会を多く設け、勉強会・研修会を開き、情報の共有を図っています。職員は仕事をしながら自己研鑽に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	網走ブロックグループホーム協議会の研修会に参加し、管理者・職員との交流の場を持ち、サービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が困っていること、不安なことなどをお聞きし、本人様、御家族様、施設スタッフ間で情報の共有を図り、安心して暮らせるように、不安感を解消できるよう努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と接する機会を持ち、家族が困っていること、不安、要望などを聞き、安心して入居手続きが出来るよう努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が必要としていることを見極め、他のサービスも含めた対応が出来るように努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いに耳を傾け、表情、行動、言動から苦しみや不安、喜びを分かち合い、支えあい、一緒に学ばせていただきながら、生活を共にしています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅に居たときと同じような雰囲気を作りながら、ご家族様とスタッフが連携を取り、利用者様を支えています。出入りも自由、気軽に尋ねて来られるようになっています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人や知人といつまでも交流していけるよう、これまでの関係が途切れることなく続きますように、支援していきます。	利用者の馴染みの暮らしを継続し、家族と連携し、外出やドライブ等の支援と、友人知人が訪問しやすいよう努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、体調と希望を伺いながら孤立しないように、仲良く支えあって暮らせるように努めています。レクリエーションなどを行い、スタッフも交わり楽しく過ごせる時間作りに努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係を大切にし、必要に応じ、お見舞い訪問し、ご家族に話を聞きながら精神的支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の言葉や、表情などに目、耳を傾け、困難な場合には、会議、カンファレンスなどで話し合い、本人の立場になり意向、希望を汲み取れるように努めています。	利用者の表情・言葉や家族の意見・要望等の情報を得て、職員は利用者との日々の関わりを通して、生活歴や希望・意向を共有し、その人らしい暮らしになるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族様より今までの生活歴や馴染みの生活などをお聞きし、知りえた情報を基本とし、一人一人の今までの生活の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活をケース記録で把握し、本人様の思いを引き出し、できることは見守りをし、可能な限り自立支援に繋げています。特変について、みのがしがないように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月2回カンファレンスを行い、本人様が楽しく穏やかに、生活できるよう意見を出して頂き、スタッフ全体で介護計画に反映しています。	毎月2回のカンファレンス会議の中で利用者のモニタリングを行い、面会時に現在の状況を伝え、利用者・家族の意向を反映させ、概ね3ヶ月毎にケアプランを見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の、一日の様子を個別に記録し、情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や御家族様と話し合いながら、その時々々の状況、要望に応じて、可能な限り対応できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花の咲く時期には花見に行き季節を楽しみ、紅葉の時期には紅葉を楽しんでいます。緊急時に備え警察には、顔写真入りの情報を提供し依頼しています。全職員は年1回救命講習を受けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで掛かっていたかかりつけ医の継続を利用しています。	今までのかかりつけ医、希望する医療機関に通院しており、家族の協力が難しい時は事業所の方で対応しています。受診前と受診後に家族に報告し情報を共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化などがあれば、日々看護師に報告相談し指示を仰ぎ、適切な受診が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談員、医療看護師との連携・情報提供によりスムーズに入退院が行われています。またご家族からの情報も伝えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人他施設において、看取り介護を行い講習会を開いていただきました。今後そのような事態に遭遇した際には、経験から意見を仰ぎ参考にさせて頂きたいと思っています。	重度化・終末期についての指針を作成しており、家族に説明し同意書を交わし必要に応じ話し合いをしています。職員は、重度化・終末期に関わる講習会に参加しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを備え、入居者の急変や事故発生に備えています。AED講習会にも職員全員が毎年参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、夜間想定、昼間想定と年2回行っています。入居者様が避難できる方法を身につけています。町内会との協力体制はできています。	年2回昼間・夜間想定避難訓練を、地域住民・家族参加で実施しています。地域住民との協力体制も整い、利用者が安全で迅速に避難出来るよう話合っており、布団を使用する訓練など工夫しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護について充分理解しており、一人一人の人格を尊重し、誇り、プライバシーを損ねることの無いように、言葉かけには注意を払い、小声や耳元で他者に聞こえないように心がけ支援を行っています。	一人ひとりの人格を尊重し利用者の気持ちを大切に考え、トイレや入浴介助の際に言葉掛け等さりげないケアを心掛けています。書類の扱いに関してもプライバシーに配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表せるような関係環境を作り、一人一人の能力に応じて、自分で決めたり自己決定出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活ペースや体調に合わせて、その人らしく暮らせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回の移動理容室を利用しています。外出や受診の際は、好みの服を着用されています。その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように、天候に配慮し本人、家族などと相談をしながら支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の力を活かしながら、スタッフと一緒に食事の準備や、後片付けをされ、茶碗拭き等それぞれにあった手伝いをさせていただいています。	旬の食材や新鮮なものを取り入れた食事を心掛けています。各ユニット職員で構成されている食事改善委員会において、価格・味付け・栄養バランス・利用者の好みを考慮し、楽しく食事が出来るよう努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランス、水分量に充分配慮しています。バイタルチェック表を作成し、水分、排泄の記録をするともに、水分量の確保把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、一人一人の状態に合わせて声掛けを行い、促し行われている。義歯装着時には就寝時に薬剤洗浄を行っています。歯科往診時の対応も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムや習慣を把握し、トイレで排泄できるように、一人一人の状態に合わせ声掛け誘導を行っています。	トイレでの排泄を大切にしながら排泄チェック表を活用し利用者の羞恥心や不安に配慮したケアを心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック、水分チェック表を用いて毎日確認している。飲食物摂取の工夫、体を動かすなど働きかけを行う。看護師とも相談しながら便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体勢は整っているが、実施時間、又特殊浴槽については、曜日が決められている。突然入浴の希望があるときには、対応しています。	入浴に関するアンケートを行い、利用者の希望に添った支援を心がけ週2回以上入浴出来るよう配慮しています。足浴や小規模多機能ホームの特殊浴槽を利用する利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や活動状況、体調などに配慮し、安心して休息や睡眠が取れるよう、日中の活動を充実させ生活リズムにも配慮し看護師に相談しながら支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは、利用者一人一人の服薬内容を理解し、声だし確認、記録をしている。内服薬に変更があれば連絡ノートに記載し情報を共有しています。服薬変更時の体調もきちんと観察し看護師、スタッフに伝えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や力を活かして、それぞれが役割を持って生活しています。嗜好品、楽しみ、気分転換などを図りながら生活が豊になるような支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、利用者様の気分に応じて、散歩、ドライブ、畑作り、買い物、外食などに出かけ、お盆、正月などは家族にも協力していただき外出される機会を作っています。	日常的に散歩や、暖かい時期には玄関前のベンチに腰掛け外気浴を行っています。自然に屋外へ出掛けられるような行事が年間計画の中に多数組み込まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さを充分理解しており、小金額を手元においている利用者さんは、買い物の際、自分で支払うことが出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時に、いつでも電話の利用が出来るように対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、絵画、写真、花など季節に応じ配慮されている。ユニット内壁と室内カレンダーは、季節を感じられる飾り物となっている。	共用空間は広く明るく清潔で、各所に手摺を設置し安全に配慮しています。壁には季節感のある飾り付けや行事等の写真が飾られ、温度・湿度にも気を配り居心地よく過せるよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内テレビの前は、ソファが置かれており、気のあった利用者さん同士がいつもテレビを見たり話しをされています。自然に暗黙のうちに座る場所、人が固定されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、使い慣れたものや好みの物、家族の写真などが置かれています。本人、家族と相談しながら、居心地良く過ごせるように工夫しています。	居室には洗面ドレッサー・収納ロッカー・空気清浄機が設置されており利便性・機能性に配慮しています。馴染みの家具や椅子、テレビを持ち込まれ家族の写真を飾るなどその人らしい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来ること・わかることを把握し、それを活かすことが出来るように安心、安全な自立した生活が送れるように配慮しています。		